



平成31年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成31年2月12日

上場会社名 愛眼株式会社
 コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成31年2月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 下條 三千夫
 (氏名) 佐々 昌俊
 TEL 06-6772-3383

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	12,364	0.9	209	38.1	271	31.3	168	48.8
30年3月期第3四半期	12,475	2.4	338		395	349.4	329	

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 109百万円 (69.3%) 30年3月期第3四半期 357百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	8.71	
30年3月期第3四半期	16.99	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	16,634	14,223	85.5
30年3月期	16,849	14,171	84.1

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 14,223百万円 30年3月期 14,171百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		3.00	3.00
31年3月期		0.00			
31年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成31年3月期(予想)期末の配当につきましては未定であります。

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,942	3.7	265	11.0	348	10.0	234	29.6	12.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期3Q	21,076,154 株	30年3月期	21,076,154 株
期末自己株式数	31年3月期3Q	1,667,869 株	30年3月期	1,667,675 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期3Q	19,408,398 株	30年3月期3Q	19,408,554 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな景気回復基調で推移したものの、海外の政治・経済情勢の不確実性や金融資本市場の変動の影響等により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。また、個人消費につきましては、消費者マインドに改善の兆しが見られるものの、夏場以降に相次いだ自然災害、生鮮食品及びエネルギーの価格上昇、このところの株安に伴う逆資産効果などが複合的に影響し、弱含み状態であり、未だ本格的な回復には至っていない状況であります。

このような状況のもと当社グループは、競争力の更なる強化のため、お客様に支持・信頼される店舗づくりとブランド価値の洗練化を図ることで、成長軌道の一段高いステージへのステップアップと企業価値の向上に取り組んでまいりました。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、主に眼鏡小売事業の既存店売上が前年比で僅かながら上回ったものの、売上高では12,364百万円（前年同四半期比0.9%減）と若干前年を下回り、売上総利益率は、主に品種別の売上構成比の変化によって0.6ポイント減少しました。一方、経費面では、経費コントロールの徹底に努めたことにより、販売費及び一般管理費は8,304百万円（前年同四半期比0.3%減）となりました。この結果、営業利益は209百万円（前年同四半期比38.1%減）、経常利益は271百万円（前年同四半期比31.3%減）となりました。また、特別損失として減損損失28百万円を計上したため、親会社株主に帰属する四半期純利益は168百万円（前年同四半期比48.8%減）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として永年培ってきた安心の視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・サービス力の全てが結集した愛眼ブランドの競争優位性の強化に努めてまいりました。

商品につきましては、「目の健康」をテーマとして、幅広い年齢層の多岐にわたるニーズに対応した快適で機能的な高付加価値商品を開発することで、品質・価格の両面において、競争力があり、お客様満足度の向上につながる「お買い得商品」の品揃えの充実とマーチャンダイジングによる販売促進を進めております。

売上高につきましては、競争環境の激化の影響もあり、低価格帯商品の販売数の減少等により伸び悩みました。品種別では、サングラスは、販売促進に努めましたが、売上は、前年同四半期比で若干減少しました。一方、補聴器は、お試しレンタルサービスとアフターケアがお客様より好評を得ており、引き続き順調に推移しております。

店舗につきましては、不採算店を中心に3店舗を閉店し、既存店の活性化を目的とした改装を11店舗で実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は11,817百万円（前年同四半期比0.7%減）、セグメント利益は297百万円（前年同四半期比29.3%減）となりました。

[眼鏡卸売事業]

眼鏡卸売事業につきましては、得意先小売店に対する新規開発商品の投入や販売支援に努めるとともに、新規取引先の開拓に取り組んでおりますが、売上高は356百万円（前年同四半期比2.7%減）となり、セグメント利益は1百万円（前年同四半期はセグメント損失1百万円）となりました。

[写真館事業]

愛写館3店舗を営む写真館事業につきましては、お出かけ用七五三着物レンタルキャンペーン、成人式振袖レンタルキャンペーン、卒業式袴レンタルキャンペーンや小学校卒業式袴レンタル会などのご相談会や、通販ショップ「EC SHOP 愛写館」サイトなどにより新規顧客の集客・拡販に努めましたが、市場競争激化により厳しい状況が続いております。

この結果、写真館事業における売上高は77百万円（前年同四半期比15.1%減）、セグメント損失は52百万円（前年同四半期はセグメント損失45百万円）となりました。

[海外眼鏡販売事業]

海外眼鏡販売事業につきましては、中国での競争環境が引き続き厳しい状況にあるなか、採算の改善に努めておりますが、店舗数の減少に伴い売上高は113百万円（前年同四半期比5.9%減）、セグメント損失は9百万円（前年同四半期はセグメント損失8百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は16,634百万円、負債合計は2,411百万円、純資産合計は14,223百万円となりました。前連結会計年度末に比べ負債合計が266百万円減少し、純資産合計が51百万円増加した結果、自己資本比率は85.5%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年5月11日に公表いたしました通期の連結業績予想につきましては、経費コントロールが順調に進んでいることや、売上高増進へ向けた施策に注力していることから修正は行っておりません。当該予想の修正が必要となる場合は、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,014	5,216
受取手形及び売掛金	937	888
有価証券	300	—
商品及び製品	2,177	2,242
原材料及び貯蔵品	36	36
その他	173	210
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	8,636	8,592
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,022	982
土地	1,887	1,887
リース資産（純額）	17	4
その他（純額）	149	198
有形固定資産合計	3,076	3,071
無形固定資産		
リース資産	38	25
その他	10	9
無形固定資産合計	49	34
投資その他の資産		
投資有価証券	1,050	973
敷金及び保証金	3,400	3,333
その他	636	627
投資その他の資産合計	5,087	4,935
固定資産合計	8,213	8,041
資産合計	16,849	16,634

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	540	684
未払法人税等	186	50
賞与引当金	120	44
その他	1,152	1,058
流動負債合計	1,999	1,837
固定負債		
繰延税金負債	49	26
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	336	334
リース債務	124	45
その他	160	161
固定負債合計	678	574
負債合計	2,677	2,411
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	5,108	5,218
自己株式	△1,050	△1,050
株主資本合計	16,497	16,608
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	113	58
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	31	27
その他の包括利益累計額合計	△2,325	△2,384
純資産合計	14,171	14,223
負債純資産合計	16,849	16,634

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	12,475	12,364
売上原価	3,807	3,850
売上総利益	8,667	8,514
販売費及び一般管理費	8,329	8,304
営業利益	338	209
営業外収益		
受取利息	8	6
受取配当金	12	11
受取家賃	51	52
その他	31	42
営業外収益合計	102	112
営業外費用		
支払利息	1	—
固定資産除却損	6	20
賃貸費用	31	31
その他	7	0
営業外費用合計	46	51
経常利益	395	271
特別利益		
投資有価証券売却益	38	—
特別利益合計	38	—
特別損失		
投資有価証券売却損	—	1
投資有価証券評価損	—	2
減損損失	5	28
特別損失合計	5	32
税金等調整前四半期純利益	428	238
法人税、住民税及び事業税	97	70
法人税等調整額	1	△0
法人税等合計	98	69
四半期純利益	329	168
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	329	168

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	329	168
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	27	△55
為替換算調整勘定	0	△3
その他の包括利益合計	28	△59
四半期包括利益	357	109
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	357	109
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	11,897	366	91	120	12,475	—	12,475
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	66	—	—	66	△66	—
計	11,897	433	91	120	12,542	△66	12,475
セグメント利益又は損失 (△)	420	△1	△45	△8	365	△27	338

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去10百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△37百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外眼鏡販売	全社・消去	合計
減損損失	5	—	—	—	—	5

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成30年4月1日 至平成30年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	11,817	356	77	113	12,364	—	12,364
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	66	—	—	66	△66	—
計	11,817	422	77	113	12,431	△66	12,364
セグメント利益又は損失 (△)	297	1	△52	△9	236	△26	209

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失（△）の調整額は、セグメント間取引消去9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△36百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)

（単位：百万円）

	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外眼鏡販売	全社・消去	合計
減損損失	10	—	18	—	—	28

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。